

「気象衛星データの学術利用に関するシンポジウム」開催のお知らせ

気象衛星データの学術利用に関し、これまでの研究成果と問題点を明らかにするために、標記のシンポジウムを開催することになりました。詳しい講演プログラムは天気9月号に掲載予定ですが、多数のご参加を希望いたします。

期 日 昭和53年11月3日～5日

主 催 「気象衛星データの学術利用に関するシンポジウム」組織委員会

後 援 日本気象学会, WMO, IAMAP

会 場 11月3日(金) 気象庁大講堂
4日(土) } 学士会館分館
5日(日) }

参加費 4000円(但し、日本気象学会会員は3000円)

なお、講演発表はすべて招待講演とし、外国から4～5名、日本から約15名の講演者を予定しています。

日産学術研究助成候補者の推薦募集

上のことについて、日産科学振興財団から、当学会に助成候補者の推薦を依頼してきました。推薦を希望される会員は、所定の応募用紙に研究内容を記入し、10月末までに学会事務局へ提出して下さい(応募用紙は学会事務局にあります)。なお、この研究助成の詳細は下記のとおりです。

記

1. 助成の趣旨

自然科学を主とする学術の基礎分野における有意義な研究にして、国の助成となるべく重複しないもの(その期間が長期に亘る研究、学際的なグループによって行なわれる研究等)に対し助成を行ない、わが国の基礎学術の向上、進展に寄与しようとするものです。

2. 助成対象研究分野

助成対象を、質源・エネルギー、環境の分野におき、本年度は当該分野のうち次のような研究を期待します。必ずしも実験を伴う研究のみでなく、いわゆるソフトの研究も含まれます。ただしその場合は、調査研究助成として扱います。

- ① 地域生態系の新しい解析手法に関する研究
- ② 環境影響評価の方法に関する基礎的研究
- ③ 人間居住環境の基礎的、総合的研究
- ④ 新しい原理に基づく環境の分析方法の研究
- ⑤ 大気汚染物質の環境中における変化機構に関する研究
- ⑥ 大気汚染物質の生物学的作用機構に関する研究
- ⑦ 環境制御の新しい方法の研究

- ⑧ 化学物質の生物学的影響における閾値に関する研究
- ⑨ 資源の再利用(循環)に関する研究
- ⑩ 低落差エネルギーの利用に関する研究
- ⑪ エネルギーの貯蔵に関する研究
- ⑫ 省エネルギーに関する研究
- ⑬ 資源の代替および利用効率の向上に関する研究

3. 助成対象の研究者

本学会に関する自然科学分野の基礎的な研究に従事しており、2～4年の期間を要する上記の研究を行なおうとする研究者および研究グループで、その研究成果が学術の進歩、発展に貢献するところが大きいと思われるもの。

4. 研究助成金額

○総額(研究全年度) 約110,000千円

●研究1件につき30,000千円(調査研究は5,000千円)を限度とします。

○上記のうち第1年度(54/4～55/3)分 約60,000千円

●研究1件につき5,000千円*程度とします。

*研究期間の長短、年度別の所要額の状況にもよりますので、あまりこの金額にとらわれる必要はありませんが、最高額は8,000千円とします。ただし、調査研究については2,000千円程度とし、期間は2年とします。

5. 推薦件数

1学(協)会より1～2件とします。